

■D X推進への取組

【経営理念】

- ・より良い地球環境と労働環境を次世代に繋ぐ

法令・社会規範の遵守、高い倫理観のもとで企業活動を行い、社員の多様性、人格、個性を尊重し、互いに高めあいながらやりがいのある仕事・職場環境を作ります。

社員1人1人が自ら考え行動し、経営に参画できる場をつくり、環境・地域・社会に貢献できる活動を積極的に推進します。

制定日 2025 年 1 月 1 日

未来建築研究所株式会社

代表取締役社長 向山敦

【D X基本方針】

未来建築研究所株式会社は、I C T技術の活用による業務効率化が今後の経営において必要になっていると考えているため、デジタル技術の活用およびお客様の利便性の向上を進めるため以下のD X基本方針を定める。

- ・社内の業務効率化によるコスト削減を図りつつ、デジタル技術活用によるお客様の利便性の向上を目指します。
- ・データを活用した販売戦略を行い、意思決定を図っていきます。
- ・I C T技術の活用は、従業員にとっても必要不可欠な技術であるため、I Tリテラシー向上を図る上で研修等を積極的に取り入れます。

【D X戦略】

- ・社内業務の効率化

ペーパーレス化と、反復的な業務の自動化を進め、コスト削減と業務のスピード向上を図っていきます。

- ・従業員のI Tリテラシーの向上を図るため、データ分析・セキュリティ・デジタル技術の教育

データの取扱いに関するセキュリティ教育やデジタル技術の教育を実施し、データガバナンスとセキュリティ意識を強化していきます。

【D X推進体制】

- ・代表取締役を統括責任者とし、D X推進委員会を立ち上げ、営業部門の課長をD X推進責任者とし、総務経理室長を補佐として任命し、D X推進タスクにおいては委員会において協議を行う。

- ・D Xは全社的な取組みであるため、各部門（総務経理室、企画開発部、構造設計本部など）がそれぞれ連携を行い、データの共有を行える仕組みを構築していく

- ・全社員のI Tリテラシー向上のための研修を実施していく

【システム環境体制】

1. 環境整備体制

社内システムの設計、開発企画については、D X推進委員会を窓口とし外部業者を活用し推進を行います。

システムの導入・改修時には要件定義から本稼働までの共同プロジェクトとし外部業者と一緒に立ち上げて進めていきます。

システムの導入・改修は、全社的な検討を実施し、費用対効果をもとに実施判断を行うこととし、活動内容をD X推進委員会にて検証を行います。

2. 具体的な方策

当社ではクラウド型S a a S（楽々精算、Office365）を導入しており、今後もクラウド型アプリケーションを中心に積極的に業務に取り入れ活用を図っていきます。

1. 業務システムの全体最適化
2. 業務プロセスの改善
3. 業務遂行体制の向上

【D X戦略の達成度を測る指標】

事業年度ごとに達成状況を確認し、P D C Aサイクルにより見直しを実施する

1. 労働生産性の向上
 - ・事務作業の業務改善 ・ ・ ・ デジタルツールの見直し件数
 - ・フレキシブルな働き方 ・ ・ ・ 生産性向上に関する取組み件数（テレワーク実施回数等）
2. D X人材レベルの向上
 - ・D X人材の育成 ・ ・ ・ 資格取得件数
 - ・外部企業との連携 ・ ・ ・ 社外研修や勉強会等の参加件数

【実務執行総括責任者による効果的な戦略の推進等を図るために必要な情報発信】

未来建築研究所株式会社では、加速するデジタル化の環境に対応してくため、従来の業務プロセスやシステムのデジタル化を推進しています。

D X化により本社・営業所・工場の従業員間の連携を強化し、働きやすくより効率的に業務に取り組めるよう環境を整えてまいりました。また、従来のアナログで行っていた経費伝票処理や勤怠管理などの事務業務をペーパーレス化・自動化し一元管理をすることで業務効率化を行っております。

上記の改善により、今までよりもさらにお客様の困りごとやご要望に真摯に向き合い課題 解決をお手伝いできるようになりました。当社は今後も、仕事の改善・改革を継続し、お客様満足度の追求、社員満足度の向上に取り組んで参ります。